



まちを動かす情熱

特集

1人のライフワークから見る、府中市の未来。
「1人の市民として」このまちを盛り上げる。

タクト オフ ハー

Profile

松本拓也さん(37歳)

- ▶株式会社亀山 代表取締役として
美容室を2店舗経営
- ▶一般社団法人府中青年会議所(府中JC) 理事長

美容師になろうと思ったきっかけは？

もともと家業が1933年創業の美容室だったことが大きいですね。

家族が働く姿や、お客さんとの距離の近さ・仲の良さを見ながら育つ中で、「人と関われる仕事っていいな」と思うようになり、気づけば今この仕事をしています。

美容室の経営で心がけていることは？

長く同じ場所で商売を続けてこられたのは、地域の皆さんとの信頼関係があってこそだと思っています。だからこそ、髪のことだけでなく、街のことや日常のちょっとした困りごとでも気軽に相談してもらえる、そんな「街の相談場所」のような存在になりたいんです。

「まちに必要とされるサロン」というコンセプト



「まちに必要とされたい」思いが形となった「青空こども食堂」

店舗の駐車場にキッチンカーを呼び、子どもたちにカレーを無料で提供する子ども食堂には、毎回数十人の子どもたちがやってきます。子どもたちの居場所を作ることができて幸せだと松本さんは話されます。



青年会議所との出会いは？

家業を継ぐ前は、東京の専門学校に進み、そのまま東京で就職していたんです。そのとき東日本大震災が起こり、実際の被害こそあまりなかったものの、携帯がつながらず情報がシャットアウトされ災害を身近なものに感じました。そうした状況で、ボランティア活動に焦点が当たる中「JC」の存在を知りました。彼らが「困ったときにこそ動くコミュニティ」だと分かり、必要な団体だと強く感じましたね。

2014年に府中に戻ってきて、紹介を経て府中青年会議所に入会しました。これまで「ドレミファ・フェスティバル」、「わんぱく相撲大会」、「野球大会」などに関わり、地域を盛り上げられるよう頑張ってきました。

青年会議所に入会してやりたかったことは？

とにかくまちを盛り上げ、なかなか難しいかもしれませんが昔のような活気を取り戻したいですね。幼い頃のイメージですが、人がたくさんいるまちにしたい！

府中JCが企画した
ミズベリング

水辺を生かしたまちづくりで、人が集い、つながる未来を。

8月1日、府中市こどもの国ポムポム前の河川敷を舞台に、ファミリー層など多くの人が楽しめるイベントが開催されました。市内初開催にして多くの参加者が訪れました。

どんなイベントだった？

川・水遊びエリア

ポムポムの前を流れる小川はもちろん、設置されたプールで小さな子どもも遊べた！

ウォーターサバイバル

無料貸出の水鉄砲で打ち合い
みんなびしょ濡れ！1回最大20人の勝ち抜きバトル！

グルメエリア

お腹がすいても大丈夫！
日が暮れるまで遊びつくした1日となりました！

イベントの本当の狙い

「水辺の利活用」と
「まちの活性化」



イベントの本当の狙いは、開催そのものではありません。構想から開催まで約2年。行政・議会・経済団体・地域が立場を越えて議論を重ねてきました。「水辺の利活用」をきっかけに人が集い、つながり、新たな挑戦が生まれること。そして、その動きを「まちの活性化」へつなげていくことです。

次の世代へメッセージ

「夢を終わらせない」
夢があつて、それがつながつて
形になっていく。
そんなまちにしたいです。

若い人たちには「自分がやりたいと思って描いたことに、若いうちから挑戦してほしい」ですね。実現するのは、1人では難しく力があることです。でも仲間がいればみんなで実現できる。仲間を作るため、自分の思いを声に上げ続けてほしいですね。

